

## 松井委員

給食のアンケート結果について気になるところがあるんでお尋ねします。

美味しくなくなったというのが25%で4分の1もあるんですね。この4分の1というのはとても気になるんですが、それで「味が濃い」と「味が薄い」に大きく分かれています。とても難しいんですけど、健康面で言えばやっぱり薄口の方がいいと思うんですが、このおいしくなくなった4分の1のアンケートを少なくする解決はどのようなふうにご検討されていますか

## 北村教委事務局長

松井委員のご指摘なんですけども、これ、私どももちょっと調査して、ちょっとショックだったのは事実でございます。ただ、これ1回しか、まだやっておりませんので、実際にどこと、おいしかったのかおいしくなかったのかというのはちょっと私どもとしてもつかみ切れていない部分がございます。

先ほどおっしゃっておりますように、このようなアンケートを特に生徒さんに対してもう少し回数を増やして、正しいという言い方はおかしいんですけども、より密着した形の要望を吸い取るようにさせていただきたいと思っております。これはたまたま1回目の、初めての調査でございましたので、今後、内容的にはもう少し変わってくるのではないかなと推測をしているところでございます。

## 松井委員

努力していただけるようで嬉しく思います。よろしく申し上げます。

その下の残量調査では、1%以下で昨年度と同じ、同量ということで、先生方のご努力の結果だと思っておりますけれども、いつも私が気になっているのはアレルギーの子に対してなんですけれども、アレルギーの子が辛い思いをしないように、指導とかケアをしていっていただきたいと思ってるんですけども、その後、アレルギーの子に対して何か調査報告はありますでしょうか。

## 長友教育次長

アレルギーへの対応ということで、以前にも答弁させていただいたかとは思いますが、この調理業務委託とアレルギーとの同時の解決といいますか、処理ということは現在のところでは考えておりません。といいますのは、アレルギー対応というのは非常に簡単ではないというか、非常に厳密な形でやらないとかえって事故を誘発するといったことが想定されますので、保護者の何人かの方からも強いお話とかも聞いております。ただ、やはりそうですかという形にはなかなかならないという中で、対症療法的ではありますけれども、給食の含有成分

の事前のお知らせという形で、除去をすると、食べないというような消極的な方法ですけども、今そういう形で対応をお願いをしてるところであります。

#### 松井委員

3点ほどお尋ねします。

まず、マスコミをにぎわしてるモンスターペアレントについてですけども、学校に対して無理難題を言ってくる親、モンスターペアレントという言葉が新語としてちょっと今マスコミで騒がれてますけれども、例えば「仲の良い子と必ず同じ学級にしろ」とか、「集合写真でうちの子が中央でない」とか、「チャイムがやかましいから感謝料出せ」とか、「子供の喧嘩の責任を取れ」とか、ヤフーとか新聞なんかを色々見ましたら、もっともっと本当にもう「ええっー！」と思うようなことが一杯あります。常識を逸脱したクレームが親から出される。そういう親をモンスターペアレントというということで、一部の保護者なんですけども、そういう保護者が最近増えたということで、その担任はその対応に追われて本来の授業とか教育指導に力入れられなくて、精神的にまいってしまって休養とか療養をすとかというふうな、そんな報告が受けられています。天理市の現状はどういうものでしょうか。

#### 長友教育次長

保護者の要望といいますのは、非常に線引きの難しいところもございまして、当然あってしかるべきの要望もあれば、今おっしゃったように、それは不当ではないかと思われるような要望というの、それが分けて出てくれば非常にわかりやすいんですけども、同じ方が話の流れの中で、当初の当然あるべき要望から不当なというか、判断されるような要望に変わってしまうというようなケースも多々あるような状況が見えているというのは、おっしゃるとおりかもしれません。ただ、教育委員会の方に、多くの場合は学校の方で上手に処理いただいているというのが現状かというふうに思っております。

教育委員会の方でも、学校と連携をしながら取り組んでいる案件も実はあるにはあるんですけども、今継続中のももちろんありますけども、丁寧に対応しながら、こたえるべきはこたえ、難しいところはやはりそれは難しいということもはっきり言いながら対応していきたいなというふうに思っているところです。

#### 松井委員

ありがとうございます。学校で処理し切れる内容がほとんどのようですけども、対応面でも次長のおっしゃる答弁でとても心強く思いました。天理市は、保護者の方から聞くところ

とモンスターっぽい人がいるとかというのは聞きますけれども、マスコミで騒がれるほどのそういうモンスター的な方はおられないのかなと思います。過剰になってくると、東京都の港区では、企業にも弁護士がいるように学校にも専門のスクールローヤーが必要ということで、弁護士に相談できる学校問題法律相談運営委員会というのを設置されましたし、佐賀市の教委ではクレームを想定した研修会を実施して、受講後のアンケートで9割はとても有効だったということで、やっぱりそういうふうな対処をされているところがあります。

次長のお話聞きましたら、うまく対応していただいている現状かなと思うんですけど、もしそういうふうなちょっと弁護士さんに頼まなければいけないとか、教師の方の心のケアとかが必要になってくれば、やっぱりそういうふうな事業も考えていっていただきたいと思います。

そしたらもう一つ、子育てサークルの補助金はどうなっておりますでしょうか。今10グループあると思うんですけども。

中谷教育総合センター所長

年度初めに申請をお受けいたしまして10サークルに補助金を、申請もいただきまして実施、昨年度と同様にしているところでございます。

松井委員

たしか全部で30万円ほどでしたね。

中谷教育総合センター所長

一グループ3万8,500円の補助金でございます。

松井委員

今、10グループあるんですけども、新しく作りたいというお母さんたちのグループがちょこちょこあるんですけども、その「枠内でグループの頭数で割るんで、私らが新しく申請すると額が減るんで、今のグループの方に迷惑かけたらいけないから申請しにくい」というような声があるんですけども、そういうお母さん方にはどう返答していけばいいか、教えていただけますか。

中谷教育総合センター所長

一定、申請の期間を定めまして広報もしているところでございます。それ以後も、そういう声を私どもの方も一グループ聞いたんでございますけれども、一定申請の期間がございましたので、本年度についてはこういうふうな形で、お声をまた随時この後、来年度になりますけども対応を検討してまいりたいと考えております。

松井委員

そしたら、お母さんたちが遠慮して申し込みを控えることのないように、安心して天理っ子育成のためにも補助金の制度を充実させていただきたいと思います。

それから、南中の特別支援教育についての、ちょっとメールでクレームをいただいたんですけども、学年の平均が60点の数学のテストで、10点以下が1割もいるというふうなことでした。「本当に支援教育を十分にしているのか」という不安の声があるんですが、南中の支援教育について教えていただけますか。

#### 長友教育次長

今お尋ねの数学の60点と10点以下という、その部分について、具体面についてはちょっと聞き及んでないんですけども、南中の特別支援という点にかかかりますと、南中でも特別支援の体制というのは、通常の学校の推進体制とコーディネーターという配置ということでは通常どおりの配置をしていただいておりますし、それによって各クラスから上がってくる子供たちの考慮すべき子供たちということで、その委員会、推進委員会、学校内の推進委員会に上がってきたものを、例えば教育総合センターの相談窓口へ持ってきたりとかというような形の対応というのをこれまでもしてもらっていましたし、していただいているというふうに私どもは思っているところなんですけれども、今おっしゃっていただいた詳細についてはちょっと聞き及んでないというところでございます。